

大切な水

にしおか めいさ
西岡 明咲

「水」と聞いて真ッ先に思いうかぶのは、
とう明で冷たくて、いつでもほしい時にじや
口をひねると出てくるきれいな水を思いうか
べるのではないでしょう。しかし、世界に
はよごれた水さえも手に入れるのかむずかし
く水不足で困っている国がたくさんあるので
す。日本の水道水は、安心・安全に飲むこと
ができる水道水ですが、実は日本のように水
道水を飲むる国は意外にも少なく、世界でも
たった15カ国しかないそうです。

光塩女子学院

私は、以前テレビ番組で小さな女の子が水
をくむために重いバケツを頭に乘せて、何km
も歩いてくみに行っている姿を見たことがあ
ります。しかも、くんでいる水は水たまりの
ような泥水や汚染された川の水だったのです。
それを見て、
「汚い水だよ。飲んでほだめだよ。」
と思わずさげんでシヨツクを受けたことがあ

ります。しかしその国では、そのようなきつな水しか手に入れることができないのです。汚染された水を飲むことで下痢や病気になり命を落としてしまう人も多いのです。また、水をくむ仕事は女性や子供の仕事とされています。水くみの仕事で時間や体力をうばわれ学校に通うことが出来ず、貧困問題にもつながっているのです。

全世界の人が、日本のように安心・安全な水を飲めるようになるのはいつになるのでしょうか。

光塩女子学院

ようか。日本は、水不足の国のために支えんをする活動をしています。日本の技術者を現地にはけんして井戸をほったり、浄水設備を整えたり、海水を真水に変える研究をしたりしているそうです。私は、今後もどんな外国に技術を教えてあげてほしいと思います。水の大切さや便利さを一番知っているのは、豊かな水に恵まれている日本に住んでいる私達だと思ふからです。水は、人間の体に必要な飲み水という役目だけではなく、体や身

辺を清けつに保ち、人間が病気にかかるのを防ぐ衛生面の上でもとても重要なものです。だからこそ、命の水と言われるのかもしれない。

大人でなくても私達小学生でも出来ることはあります。自然から恵んでいただいた限られた水をむだにしないことです。水を出しっぱなしにしない。おふろの残り湯を洗たくや花木の水やりに利用するなどして、節水を心掛けること。水不足の国への支えんのために

光塩女子学院

ほ金をすること。世界につながっている海をきれいに保つことなのです。一つ一つは、小さいなことかもしれませんが、多くの人が少しずつすれば大きな力となり、水不足に困っている国を救う手助けになると思うのです。豊富に出る水を使っている、つい止めるのが面倒くさいと思っ、てしまひ、もう一人の友の姿を忘れてしまふかもしれませんが、もう一度安全な水を使えるありがたさについて考え、感謝の気持ち忘れずに水を大切に

使
っ
て
い
き
た
い
と
思
い
ま
す
。

光
塩
女
子
学
院